

## 学部・研究科等の教育に関する現況分析結果

学部・研究科等の教育に関する現況分析結果（概要）	教育 0-1
1. 人文学部	教育 1-1
2. 人文社会科学研究科	教育 2-1
3. 教育学部	教育 3-1
4. 教育学研究科	教育 4-1
5. 医学部	教育 5-1
6. 医学系研究科	教育 6-1
7. 工学部	教育 7-1
8. 工学研究科	教育 8-1
9. 生物資源学部	教育 9-1
10. 生物資源学研究科	教育 10-1
11. 地域イノベーション学研究科	教育 11-1



## 学部・研究科等の教育に関する現況分析結果（概要）

学部・研究科等	教育活動の状況	教育成果の状況	質の向上度
人文学部	期待される水準にある	期待される水準にある	質を維持している
人文社会科学研究科	期待される水準にある	期待される水準にある	質を維持している
教育学部	期待される水準にある	期待される水準にある	質を維持している
教育学研究科	期待される水準にある	期待される水準にある	質を維持している
医学部	期待される水準にある	期待される水準を上回る	改善、向上している
医学系研究科	期待される水準にある	期待される水準にある	質を維持している
工学部	期待される水準を上回る	期待される水準にある	質を維持している
工学研究科	期待される水準にある	期待される水準にある	改善、向上している
生物資源学部	期待される水準にある	期待される水準にある	質を維持している
生物資源学研究科	期待される水準にある	期待される水準にある	質を維持している
地域イノベーション学研究科	期待される水準を上回る	期待される水準にある	改善、向上している

## 注目すべき質の向上

## 工学研究科

- 外国人教員を中心とした少人数実践英語教育、国際会議発表演習をはじめとする国際教育科目群の新設等の取組により、学生の英語力、教育課程の国際通用性の向上に取り組んでおり、英語授業科目の履修者数は平成 21 年度の 120 名程度から、国際教育科目を新設した平成 24 年度の 370 名に増加している。また、博士前期課程学生の英語による発表件数は、平成 21 年度の 88 件から平成 27 年度の 570 件へ増加している。

## 地域イノベーション学研究科

- 研究開発能力やプロジェクト・マネジメント能力並びに国際感覚を有する即戦力型人材養成のため、専門的な研究開発を担当する教員（R&D 教員）と、研究プロジェクト・マネジメントを担当する教員（PM 教員）が、1 名の学生に対して双方から指導を行い、両方の能力をバランス良く身につける「サンドイッチ方式教育」を実施している。
- 養成しようとする人材像に応じた教育のため、在学中に課題の解決方法を実施し

## 三重大学

ながら教育する方法（OPT 教育）やインターンシップ等を実施している。特に OPT 教育では、複数の文理融合型の共同研究教育を実施している。

- 学生の国際感覚を向上させるため、国際会議での発表の推奨、地域イノベーション学に関する国際ワークショップ等での英語による発表や、英語論文作成の推進等を実施することにより、博士前期課程・博士後期課程ともに、在学中に英語で研究成果を発表する機会を設けている。

## 人文学部

I	教育の水準	.....	教育 1-2
II	質の向上度	.....	教育 1-4

## I 教育の水準（分析項目ごとの水準及び判断理由）

### 分析項目 I 教育活動の状況

#### 〔判定〕 期待される水準にある

#### 〔判断理由〕

観点1-1「教育実施体制」について、以下の点から「期待される水準にある」と判断した。

- 教育の質保証に向けた取組として教育の活性化を目的とし、学内の特色ある教育の取組を選定し支援する三重大学教育 GP により、教育力向上の方策を検討するとともに成果を外部評価で検証しているほか、報告書やガイドブックにまとめ、公表、配付している。
- 教育目的を実現する教育体制としてコース・プログラムを整備するとともに、構成員全員参加の FD 研修会、三重大学教育 GP、外部評価等により教育力向上に取り組んでいる。平成 27 年度の三重大学教育満足度調査報告書では、教育実施体制等に関する項目についての学生の満足度は、81.7%から 90.5%となっている。

観点1-2「教育内容・方法」について、以下の点から「期待される水準にある」と判断した。

- 社会のニーズに対応した教育を実施するため、三重大学、伊賀市、上野商工会議所が連携し、伊賀市に教育研究拠点「三重大学伊賀連携フィールド」を設置している。忍者文化及び市街地活性化等の地域社会のニーズに応じた研究を行うとともに、留学生文化体験等の学生の教育フィールドとして活用している。
- 国際社会で活躍する人材の育成のため、平成 24 年度に短期海外派遣を開始し、平成 27 年度までに受入先となる協定校は、アジア・オセアニア 18 校、ヨーロッパ 9 校、南北アメリカ 2 校となっている。世宗大学校（韓国）ショートビジット及び国際インターンシップに平成 26 年度までに学生 17 名（年度平均約 6 名）が参加し、オックスフォード大学ハートフォードカレッジ（英国）の短期語学研修には、平成 27 年度までに学生 30 名（年度平均約 8 名）が参加している。
- 学生の主体的学習を促すため、少人数の能動的学習を実施している。文化学科及び法律経済学科 3 年次の専門演習では、学生の発表討論を中心に正規の時間割外でのフィールドワークや施設現場見学、他大学のゼミとの交流を取り入れている。

以上の状況等及び人文学部の目的・特徴を勘案の上、総合的に判定した。

## 分析項目Ⅱ 教育成果の状況

### 〔判定〕 期待される水準にある

#### 〔判断理由〕

観点2-1「学業の成果」について、以下の点から「期待される水準にある」と判断した。

- 第2期中期目標期間（平成22年度から平成27年度）の標準修業年限内の卒業率は、毎年度95%以上となっている。
- 第2期中期目標期間の教員免許状及び資格取得の状況は、教員免許状取得者は中学一種、高校一種合わせて平均45.3名、学芸員資格取得者は平均16.8名、図書館司書資格取得者は平均26.7名となっている。

観点2-2「進路・就職の状況」について、以下の点から「期待される水準にある」と判断した。

- 第2期中期目標期間の就職率は毎年度95%以上となっている。また、平成22年度から平成26年度の就職者のうち、三重県を含む東海地方への就職者の割合は70.7%となっている。
- 平成23年度に実施した就職先企業アンケート結果では、肯定的な回答が多かった項目は「チームワーク・協調性」、「社会性」となっており、それぞれ4点満点中3.5点程度となっている。

以上の状況等及び人文学部の目的・特徴を勘案の上、総合的に判定した。

## Ⅱ 質の向上度

### 1. 質の向上度

〔判定〕 質を維持している

〔判断理由〕

分析項目Ⅰ「教育活動の状況」における、質の向上の状況は以下のとおりである。

- 教育目的を実現する教育体制としてコース・プログラムを整備するとともに、構成員全員参加のFD研修会、三重大学教育GP、外部評価等により教育力向上に取り組んでいる。平成27年度の三重大学教育満足度調査報告書では、教育実施体制等に関する項目についての学生の満足度は、81.7%から90.5%となっている。

分析項目Ⅱ「教育成果の状況」における、質の向上の状況は以下のとおりである。

- 第2期中期目標期間の就職率は毎年度95%以上となっている。また、平成22年度から平成26年度の就職者のうち、三重県を含む東海地方への就職者の割合は70.7%となっている。

これらに加え、第1期中期目標期間の現況分析における教育水準の結果も勘案し、総合的に判定した。



## 人文社会科学研究科

I	教育の水準	.....	教育 2-2
II	質の向上度	.....	教育 2-4

## I 教育の水準（分析項目ごとの水準及び判断理由）

### 分析項目 I 教育活動の状況

#### 〔判定〕 期待される水準にある

#### 〔判断理由〕

観点1-1「教育実施体制」について、以下の点から「期待される水準にある」と判断した。

- ファカルティ・ディベロップメント（FD）については、大学院教育に特化した問題又は課題を取り上げて FD 研修会を実施し、授業内容や方法の改善に努めている。第2期中期目標期間（平成22年度から平成27年度）の修了時アンケートでは、授業内容の満足度に肯定的な回答が100%となる年度が4年度あり、そのほかの年度もおおむね90%となっている。
- 修士論文の質の担保のため、修士論文発表会を開催するとともに、選考基準をあらかじめ学生に公開した上で、優秀修士論文に対し研究科長賞を授与している。

観点1-2「教育内容・方法」について、以下の点から「期待される水準にある」と判断した。

- 地域文化の理解と貢献というディプロマ・ポリシーの実現のため、選択必修科目「三重の文化と社会」を開講している。三重県下の1市町村をフィールドに選び、野外実習、現地発表会、報告書作成等、受講生の専門分野に即した研究を通じて、実践的な研究能力の育成に努めている。また、学生の研究成果発表と組み合わせ、平成22年度から平成24年度に「地域研究フォーラム」を開催し、100名以上が参加している。平成25年度以降も学生の研究成果発表の場として同フォーラムを継続している。
- 有職者や社会人学生への配慮として、昼夜両方の授業を受講し、1年間で修了できる「短期在学コース」や、3年間から4年間で必要単位を修得する「長期履修学生制度」を実施している。
- 自主的な学習を促すため、少人数の対話・討論型授業や「三重の文化と社会」の開講のほか、専用自習室を設置している。これらの取組により、平成27年度の学生への授業改善のためのアンケートでは、主体的学習を示す項目について5段階評価の平均は4.39となっており、授業1回当たりの授業外学習についても2時間から4時間は45.5%、4時間以上は45.5%となっている。

以上の状況等及び人文社会科学研究科の目的・特徴を勘案の上、総合的に判定した。

## 分析項目Ⅱ 教育成果の状況

### 〔判定〕 期待される水準にある

#### 〔判断理由〕

観点2-1「学業の成果」について、以下の点から「期待される水準にある」と判断した。

- 第2期中期目標期間の標準修了年限内の修了率は、平成22年度の48%を除き、71%から91%の間を推移している。
- 平成27年度の三重大学教育満足度調査結果では、6段階評価で5以上の肯定的回答の項目は、「日常的な研究指導」、「学位論文指導」、「学生の意向（授業評価など）が教育に反映されるなど、三重大学大学院の教育を改善しようとする大学の姿勢」、「大学院の授業」、「三重大学の教育全般について」となっている。

観点2-2「進路・就職の状況」について、以下の点から「期待される水準にある」と判断した。

- 第2期中期目標期間の修了生の進路状況は、社会人学生の職場復帰や留学生の帰国等を除き、9割程度が就職し、1割程度が進学している。就職者のうち5割程度が三重県内へ就職し、主な就職先は三重県や三重県下の公務員、NPO法人、社会福祉法人等となっている。

以上の状況等及び人文社会科学部研究科の目的・特徴を勘案の上、総合的に判定した。

## Ⅱ 質の向上度

### 1. 質の向上度

〔判定〕 質を維持している

〔判断理由〕

分析項目Ⅰ「教育活動の状況」における、質の向上の状況は以下のとおりである。

- 地域文化の理解と貢献というディプロマ・ポリシーの実現のため、選択必修科目「三重の文化と社会」を開講している。三重県下の1市町村をフィールドに選び、野外実習、現地発表会、報告書作成等、受講生の専門分野に即した研究を通じて、実践的な研究能力の育成に努めている。また、学生の研究成果発表と組み合わせて、平成22年度から平成24年度に「地域研究フォーラム」を開催し、100名以上が参加している。平成25年度以降も学生の研究成果発表の場として同フォーラムを継続している。

分析項目Ⅱ「教育成果の状況」における、質の向上の状況は以下のとおりである。

- 第2期中期目標期間の標準修了年限内の修了率は、平成22年度の48%を除き71%から91%の間を推移している。また、同期間の休学者数は1名から3名の間を推移している。
- 第2期中期目標期間の修了生の進路状況は、社会人学生の職場復帰や留学生の帰国等を除き、9割程度が就職し、1割程度が進学している。就職者のうち5割程度が三重県内へ就職し、就職先は三重県や三重県内の公務員、NPO法人、社会福祉法人等となっている。

これらに加え、第1期中期目標期間の現況分析における教育水準の結果も勘案し、総合的に判定した。

## 教育学部

I	教育の水準	.....	教育 3-2
II	質の向上度	.....	教育 3-4

## I 教育の水準（分析項目ごとの水準及び判断理由）

### 分析項目Ⅰ 教育活動の状況

〔判定〕 期待される水準にある

〔判断理由〕

観点1-1「教育実施体制」について、以下の点から「期待される水準にある」と判断した。

- 附属学校園及び隣接校区学校園との連携による学生教育を支援するため、平成24年度から連携支援室を設置している。
- 入学者選抜方法について、一般入試、特別入試に加え、外国人特別入試を実施し、一般入試においては、コースを第3希望まで併願申告できるなど、教員志望者への幅広いニーズに対応している。
- 全学による授業改善のためのアンケートの結果及び担当教員からのフィードバックコメントを学生向けに継続的に公表し、プロジェクト型ファカルティ・ディベロップメント（FD）として、平成24年度から授業公開を通じた教育改善を実施しており、教員の教育力向上や職員の専門性向上に取り組んでいる。

観点1-2「教育内容・方法」について、以下の点から「期待される水準にある」と判断した。

- 天津師範大学（中国）とのダブル・ディグリープログラムを日本語教育コースで実施している。
- 積極的にPBL教育を導入しており、平成26年度における教育学部の全科目中、「PBL」を取り入れた科目は13.5%、「グループ学習の要素を加えた授業」を取り入れた科目は15.8%、その両方を取り入れた科目は8.6%となっている。
- 「教育実地研究基礎」等の授業において、地域子ども達との活動の企画・運営を行うなど、学生の主体的な学習を促進している。

以上の状況等及び教育学部の目的・特徴を勘案の上、総合的に判定した。

### 分析項目Ⅱ 教育成果の状況

〔判定〕 期待される水準にある

〔判断理由〕

観点2-1「学業の成果」について、以下の点から「期待される水準にある」と判断した。

- 第2期中期目標期間（平成22年度から平成27年度）における標準修業年限内の卒業率は、毎年度90%以上となっている。

- 平成 22 年度から平成 26 年度の教員免許状取得状況について、卒業生一人当たり約 2 件の教員免許状を取得している。

観点 2-2 「進路・就職の状況」について、以下の点から「期待される水準にある」と判断した。

- 平成 22 年度から平成 26 年度における卒業生の就職率は毎年度 95%以上となっている。また、就職者のうち教員として就職した者の割合は毎年度 70%前後となっている。

以上の状況等及び教育学部の目的・特徴を勘案の上、総合的に判定した。

## Ⅱ 質の向上度

### 1. 質の向上度

〔判定〕 質を維持している

〔判断理由〕

分析項目Ⅰ「教育活動の状況」における、質の向上の状況は以下のとおりである。

- 平成 21 年度から平成 23 年度に実施した「隣接学校園との連携を核とした教育モデル」により、大学に隣接する一身田・橋北校区の学校園（3 幼稚園、6 小学校、2 中学校）との連携を強化し、教員養成の授業内容の一部として教育実習以外の教育現場における実地活動を行っている。また、平成 24 年度から「附属学校園及び隣接校区学校園と連携した実地活動の拡充による実践的指導力をもつ教員養成機能の充実」プロジェクトの実施、平成 27 年度に附属教職支援センターを新設するなど、附属学校園での授業実施プロジェクトの継続、拡大等を行っており、学生が学校現場を知ることによる学習意欲の向上を図っている。

分析項目Ⅱ「教育成果の状況」における、質の向上の状況は以下のとおりである。

- 平成 22 年度から平成 26 年度における卒業生の就職率は毎年度 95%以上となっている。また、就職者のうち教員として就職した者の割合は毎年度 70%前後となっている。
- 三重大学の教育・研究で身についたことに関する卒業生及び卒業生の就職先の関係者に行ったアンケート結果について、平成 21 年度と平成 24 年度を比較すると、卒業生の回答では「考える力」、「感じる力」、「コミュニケーション力」等の 28 項目中 24 項目で平均値が上昇しており、卒業生の就職先の関係者の回答では 28 項目中 26 項目で平均値が上昇している。

これらに加え、第 1 期中期目標期間の現況分析における教育水準の結果も勘案し、総合的に判定した。



## 教育学研究科

I	教育の水準	.....	教育 4-2
II	質の向上度	.....	教育 4-4

## I 教育の水準（分析項目ごとの水準及び判断理由）

### 分析項目 I 教育活動の状況

〔判定〕 期待される水準にある

〔判断理由〕

観点1-1「教育実施体制」について、以下の点から「期待される水準にある」と判断した。

- 天津師範大学（中国）とのダブル・ディグリープログラム等により外国人留学生の受入を行っており、平成23年度から平成27年度の入学者のうち外国人学生の割合は15%から33%の間を推移している。
- 教員の教育力向上のために、授業改善のためのアンケート結果を授業担当者へ個別にフィードバックし、教員間で授業を公開するなどの取組を行っている。
- 附属学校園等と連携した実地教育を拡充し大学院の教員養成高度化を図るため、平成24年度から「附属学校園及び隣接校区学校園と連携した実地教育の拡充による実践的指導力養成機能の強化」プログラムを開始している。

観点1-2「教育内容・方法」について、以下の点から「期待される水準にある」と判断した。

- 小・中学校教員の理科教育における指導力向上を目指して、平成24年度からコア・サイエンス・ティーチャー（CST）養成プログラムを実施している。
- 大学院生の国際性の涵養を図るため、海外の大学院生のショートステイ受入や、研究科共通科目の「教育科学特別研究演習」の一部として海外実地研究演習を行っている。
- 附属学校教員を対象として、教育現場におけるミドルリーダー養成を目指す「教職実践プログラム」を平成27年度から導入しており、修業年限を3年とし、通常の勤務時間外に講義を開講するなど、学業と就労の双方を考慮した履修システムを整えている。

以上の状況等及び教育学研究科の目的・特徴を勘案の上、総合的に判定した。

## 分析項目Ⅱ 教育成果の状況

### 〔判定〕 期待される水準にある

#### 〔判断理由〕

観点2-1「学業の成果」について、以下の点から「期待される水準にある」と判断した。

- 修了生の平均単位修得数は、平成21年度の33.6単位から平成26年度の40.0単位となっている。
- 平成22年度から平成26年度における修了生の専修免許状取得率は平均73%となっている。
- 毎年度実施している「教育満足度調査」（最低1点から最高6点の5段階評価）の結果について、平成19年度から平成21年度の平均値と第2期中期目標期間（平成22年度から平成27年度）の平均値を比較すると、「大学院の授業科目構成」は4.36から4.44、「現場体験や現場実習」は4.29から4.45、「日常的な研究指導」は4.99から5.05、「学位論文指導」は4.97から5.05となっている。

観点2-2「進路・就職の状況」について、以下の点から「期待される水準にある」と判断した。

- 平成22年度から平成26年度における修了生の教員就職率は、69%から100%の間を推移している。

以上の状況等及び教育学研究科の目的・特徴を勘案の上、総合的に判定した。

## Ⅱ 質の向上度

### 1. 質の向上度

〔判定〕 質を維持している

〔判断理由〕

分析項目Ⅰ「教育活動の状況」における、質の向上の状況は以下のとおりである。

- 平成 22 年度に修業年限が 3 年又は 4 年となる「長期履修コース」を新設し、職業を有している場合でも授業を履修しやすい体制を整えている。また、平成 27 年度から修業年限 3 年で附属学校園の教員として勤務しながら勤務時間外に大学院の授業を受講し、大学院修士号を修得することができる「教職実践プログラム」を新設している。

分析項目Ⅱ「教育成果の状況」における、質の向上の状況は以下のとおりである。

- 修了生の教員就職率は、第 1 期中期目標期間（平成 16 年度から平成 21 年度）の平均 50%から平成 22 年度から平成 26 年度の平均 56%となっている。

これらに加え、第 1 期中期目標期間の現況分析における教育水準の結果も勘案し、総合的に判定した。

**医学部**

I	教育の水準	.....	教育 5-2
II	質の向上度	.....	教育 5-4

## I 教育の水準（分析項目ごとの水準及び判断理由）

### 分析項目 I 教育活動の状況

#### 〔判定〕 期待される水準にある

#### 〔判断理由〕

観点1-1「教育実施体制」について、以下の点から「期待される水準にある」と判断した。

- 三重県市町村振興協会との「地域医療教育に関する協定」に基づき、医学・看護学教育センターに地域医療教育部門を設置し、医学科の地域枠の入学定員を平成20年度の20名から平成26年度の30名としている。また、平成23年度から「地域医療教育プログラム」を導入し、医学科の全学生を対象に三重県内全29市町で「地域基盤型保健医療実習」を実施するなど、地域医療教育を推進している。
- 医学科では3年次から研究英語指導、英語による研究計画書作成を導入し、4年次からはチュートリアル教育の課題に英語シナリオを用いている。また、看護学科では平成24年度から外国人教員による講義として「Nursing English Class」を実施するなど、英語教育体制の充実に取り組んでいる。
- 国際化に向けた教育体制を整備しており、医学科では海外交流大学から毎年20名程度を臨床実習へ受け入れており、看護学科では早期海外体験実習を導入している。

観点1-2「教育内容・方法」について、以下の点から「期待される水準にある」と判断した。

- 医学科では国際標準化を踏まえ、平成24年度から臨床実習期間を60週から68週に拡充している。また、3、4年次では地域診療所・地域病院での実習を行うなど、6年間を通して地域医療に対する意識や能力を高めている。その他、PBLチュートリアル教育、専門診療科チーム基盤型学習（TBL）及び研究室研修を導入するなど、学習指導方法の改革等に取り組んでいる。
- 平成24年度から、医学部及び看護学科の学生が地域の医療機関の協力を得て、プライマリケアの現場で「クリニカルクラークシップ」、「統合実習I・II」の合同臨床実習を行う多職種連携教育（IPE）開始している。また、三重県立看護大学等の6大学によるIPEプロジェクト（三重IPE）を実施している。
- 第2期中期目標期間（平成22年度から平成27年度）の海外臨床実習参加者数は31名から64名の間を推移している。また、海外協定校は平成22年度の14機関から平成27年度の28機関となっている。

以上の状況等及び医学部の目的・特徴を勘案の上、総合的に判定した。

## 分析項目Ⅱ 教育成果の状況

### 〔判定〕 期待される水準を上回る

#### 〔判断理由〕

観点2-1「学業の成果」について、以下の点から「期待される水準にある」と判断した。

- 第2期中期目標期間の標準修業年限内の卒業率について医学科は89.7%から95.2%、看護学科は91.3%から96.8%の間を推移している。また、第2期中期目標期間の国家試験合格率について医師（既卒を含む）は91.2%から95.0%、看護師は92.9%から100%、保健師は94.3%から100%の間を推移しており、助産師はすべての年度で100%となっている。
- 第2期中期目標期間の共用試験（CBT）の平均点は78.5から82.0の間を推移しており、いずれの年度も全国平均点を上回っている。
- 第2期中期目標期間における医学科の教育満足度調査（6段階）の平均値について、「教育全般」は3.8から4.4、「学部専門の授業」は3.9から4.4、「実習をともなう授業」は4.3から4.6の間を推移している。また、看護学科の教育満足度調査（6段階）の平均値について、「教育全般」は4.1から4.4、「学部専門の授業」は4.3から4.7、「実習をともなう授業」は4.4から4.6の間を推移している。

観点2-2「進路・就職の状況」について、以下の点から「期待される水準を上回る」と判断した。

- 医学科において、国家試験に合格した卒業生は全員が医師として医療機関に就職しており、三重県内で初期臨床研修を行う者は平成22年度の50名から、平成27年度の63名へ増加している。また、第2期中期目標期間において、看護学科における卒業生はほとんどが看護職として就職しており、三重県内で就職する者は32名から48名の間を推移している。
- 第2期中期目標期間に看護系大学院修士（博士前期）、養護教諭課程、助産課程等へ進学する者は1名から6名の間を推移している。
- 平成24年度卒業生の就職先へのアンケート（4段階）では、80%以上が肯定的回答をした項目は「広い視野で多面的に考える力」等28項目のうち、26項目となっている。

以上の状況等及び医学部の目的・特徴を勘案の上、総合的に判定した。

## Ⅱ 質の向上度

### 1. 質の向上度

〔判定〕 改善、向上している

〔判断理由〕

分析項目Ⅰ「教育活動の状況」における、質の向上の状況は以下のとおりである。

- 三重県立看護大学等6大学による三重 IPE を実施し、チーム医療の重要性を学習させるとともに、地域医療への関心を高めるための取組を行っている。
- 海外臨床実習参加者数は平成 21 年度の 25 名から平成 27 年度の 56 名へ増加している。

分析項目Ⅱ「教育成果の状況」における、質の向上の状況は以下のとおりである。

- 国家試験合格率について平成 21 年度と平成 27 年度を比較すると、看護師は 97.6%から 100%、保健師は 89.1%から 97.3%、助産師は 60%から 100%へそれぞれ上昇している。
- 地域枠推薦制度、地域医療教育プログラムの導入、卒業前の進路指導から卒業後のフォローアップ等の取組の結果、三重県内の病院への初期研修医採用人数は平成 22 年度の 50 名から平成 27 年度の 63 名へ増加している。

これらに加え、第 1 期中期目標期間の現況分析における教育水準の結果も勘案し、総合的に判定した。



## 医学系研究科

I	教育の水準	.....	教育 6-2
II	質の向上度	.....	教育 6-4

## I 教育の水準（分析項目ごとの水準及び判断理由）

### 分析項目 I 教育活動の状況

#### 〔判定〕 期待される水準にある

#### 〔判断理由〕

観点1-1「教育実施体制」について、以下の点から「期待される水準にある」と判断した。

- 平成 24 年度に組織改編を行い、博士課程生命医科学専攻と修士課程医科学専攻は2大講座制、看護学専攻は3領域化し、教育実施体制効率化を図っている。
- 第2期中期目標期間（平成 22 年度から平成 27 年度）に地域医療系寄附講座等の寄附講座を9件新設し、教育体制の充実を図っている。
- 医科学専攻では、平成 25 年度から講義を朝と夕方に集中的に実施し、一部の講義を e-learning で学習できるよう変更するなど、社会人学生に配慮している。また、看護学専攻では、大学院委員会が中心となって老年看護専門看護師コースを整備し、社会的動向やニーズに対応している。

観点1-2「教育内容・方法」について、以下の点から「期待される水準にある」と判断した。

- 生命医学専攻では、「総合診療の PhD コース」や「総合診療のための Master コース」等の独自の教育プログラムに取り組んでおり、地域で活躍できる総合診療医の養成にこたえている。
- 医科学専攻では、基礎知識の程度や興味に応じて選択科目を設定するとともに、大学院セミナーを開催し、幅広く最新の研究分野を学ぶ機会を提供している。看護学専攻では、学外講師による「看護学セミナー」を通じ、幅広い視野で医療・看護を学ぶ機会を提供している。
- 平成 24 年度文部科学省がんプロフェッショナル養成基盤推進プランに採択された「次代を担うがん研究者・医療人養成プラン」は、中間評価で「S」評価となっている。

以上の状況等及び医学系研究科の目的・特徴を勘案の上、総合的に判定した。

## 分析項目Ⅱ 教育成果の状況

### 〔判定〕 期待される水準にある

#### 〔判断理由〕

観点2-1「学業の成果」について、以下の点から「期待される水準にある」と判断した。

- 各専攻における論文審査は、3名の審査委員による口頭試問形式での公開審査会を行うとともに、博士論文は欧文学術誌へ掲載されることを要件として定めている。
- 第2期中期目標期間における、がんプロフェッショナル養成基盤推進プランに基づく資格取得者について、腫瘍内科専門医は2名、乳線外科専門医は1名、婦人科がん治療専門医は2名、がん専門薬剤師は1名、がん専門看護師は14名となっている。
- 第2期中期目標期間の修士課程の修了率について、医科学専攻修士課程は85.7%から100%、看護学科は53.8%から83.3%の間を推移している。

観点2-2「進路・就職の状況」について、以下の点から「期待される水準にある」と判断した。

- 生命医科学専攻、医科学専攻の修了生の多くは医学関連産業に就職している。また、第2期中期目標期間の就職者のうち、県内就職者の割合について、生命医科学専攻は50.0%から86.5%、医科学専攻は25.0%から80.0%の間を推移している。
- 看護学専攻では社会人が9割以上を占めており、修了生の多くは医療現場における実践指導者又は教育研究者となっている。
- 平成25年度に実施した修了生の就職先へのアンケート（4段階）では、平均値が4.0となっている項目は「広い視野で多面的に考える力」等28項目のうち、5項目となっている。

以上の状況等及び医学系研究科の目的・特徴を勘案の上、総合的に判定した。

## Ⅱ 質の向上度

### 1. 質の向上度

〔判定〕 質を維持している

〔判断理由〕

分析項目Ⅰ「教育活動の状況」における、質の向上の状況は以下のとおりである。

- 寄附講座は、平成 21 年度の 2 件から平成 27 年度の 11 件となっており、平成 23 年度からは、三重県内自治体との協定に基づき、地域医療学系寄附講座を設置している。
- 生命医学専攻では、「総合診療の PhD コース」や「総合診療のための Master コース」等の独自の教育プログラムに取り組み、地域で活躍できる総合診療医を養成している。

分析項目Ⅱ「教育成果の状況」における、質の向上の状況は以下のとおりである。

- 教育満足度調査の結果について、平成 21 年度と平成 27 年度を比較すると、教育全般、日常的な研究指導、学位論文指導をはじめとする満足度がすべての項目において改善しており、特に修士課程では、「日常的な研究指導」が 0.94 ポイント、「学位論文指導」が 0.88 ポイントそれぞれ上昇している。

これらに加え、第 1 期中期目標期間の現況分析における教育水準の結果も勘案し、総合的に判定した。

## 工学部

I	教育の水準	.....	教育 7-2
II	質の向上度	.....	教育 7-4

## I 教育の水準（分析項目ごとの水準及び判断理由）

### 分析項目Ⅰ 教育活動の状況

〔判定〕 期待される水準を上回る

〔判断理由〕

観点1-1「教育実施体制」について、以下の点から「期待される水準にある」と判断した。

- ファカルティ・ディベロップメント（FD）活動として、授業アンケート結果の教員へのフィードバック、公開等を行っているほか、入学者選抜試験の状況やハラスメント対策等に関するテーマを設定し、工学部 FD 講演会を開催している。

観点1-2「教育内容・方法」について、以下の点から「期待される水準を上回る」と判断した。

- 各学科の教育課程は、教育目標とする「感じる力」、「考える力」、「コミュニケーション力」及びそれらを総合した「生きる力」の「4つの力」を意識した授業内容及び科目配置としている。
- 各学科の教員からなるインターンシップ・ワーキンググループを設置し、インターンシップの参加支援を行うとともに、単位認定を実施している。また、地域に根ざした国際人材育成を目的として、地元企業への就職に意欲をもつ学部3年次生を対象に、地元企業、三重県の支援の下、平成27年度から地元企業の海外事業所における海外短期インターンシップを開始しており、タイ及びベトナムに各5名の学生を派遣している。

以上の状況等及び工学部の目的・特徴を勘案の上、総合的に判定した。

### 分析項目Ⅱ 教育成果の状況

〔判定〕 期待される水準にある

〔判断理由〕

観点2-1「学業の成果」について、以下の点から「期待される水準にある」と判断した。

- 第2期中期目標期間（平成22年度から平成27年度）における標準修業年限内の卒業率は、76%から80%の間を推移している。
- 在学生の満足度調査結果の「学部専門の授業」の項目の平均値（6段階評価）は、平成21年度の4.0から平成27年度の4.2へ上昇している。

観点 2-2 「進路・就職の状況」について、以下の点から「期待される水準にある」と判断した。

- 第 2 期中期目標期間における就職率は、95.4%から 98.7%の間を推移している。
- 平成 24 年度に実施した卒業生及び事業所へのアンケート結果の平均値（6 段階評価）は、「人と協同して仕事をする力」は卒業生では 3.0、事業所では 3.3、「自立的に自ら決断する力」は卒業生では 2.8、事業所では 2.9、「実際に仕事をやり遂げる実行力」は卒業生では 2.9、事業所では 3.2 となっている。

以上の状況等及び工学部の目的・特徴を勘案の上、総合的に判定した。

## Ⅱ 質の向上度

### 1. 質の向上度

〔判定〕 質を維持している

〔判断理由〕

分析項目Ⅰ「教育活動の状況」における、質の向上の状況は以下のとおりである。

- 地域に根ざした国際人材育成を目的として、地元企業への就職に意欲をもつ学部3年次生を対象に、地元企業、三重県の支援の下、平成27年度から地元企業の海外事業所における海外短期インターンシップを開始しており、タイ及びベトナムに各5名の学生を派遣している。

分析項目Ⅱ「教育成果の状況」における、質の向上の状況は以下のとおりである。

- 第2期中期目標期間における就職率は、95.4%から98.7%の間を推移している。
- 情報工学科では、基本情報技術者試験、応用情報技術者試験への学生の受験を促しており、基本情報技術者の資格取得率は、2年次末で約10%、3年次末で約20%、卒業時で約30%であり、より高度な応用情報技術者については卒業時に約5%の学生が取得している。

これらに加え、第1期中期目標期間の現況分析における教育水準の結果も勘案し、総合的に判定した。



## 工学研究科

I	教育の水準	.....	教育 8-2
II	質の向上度	.....	教育 8-4

## I 教育の水準（分析項目ごとの水準及び判断理由）

### 分析項目Ⅰ 教育活動の状況

〔判定〕 期待される水準にある

〔判断理由〕

観点1-1「教育実施体制」について、以下の点から「期待される水準にある」と判断した。

- 教育・研究企画部門の下に戦略ワーキンググループを設置し、学部修士一貫及び修士博士一貫教育体制の検討や創成工学教育科目の拡充等に取り組んでおり、『三重大学教育満足度調査報告書』における「大学院の授業」に関する平均値（6段階評価）は、平成22年度の3.9から平成27年度の4.2となっている。

観点1-2「教育内容・方法」について、以下の点から「期待される水準にある」と判断した。

- 学生の国際会議における発表を促進するために開講している「国際会議発表演習」の、単位修得者数は平成21年度の48名から平成27年度の306名となっており、国際会議の発表件数については平成21年度の48件から平成27年度の306件となっている。
- 博士前期課程では、専門力養成を志向した研究領域コース及び実践力養成を志向した創成工学コースを設置し、専門的な能力のみでなく実践的な能力をバランスよく養うことができる教育課程を整備している。

以上の状況等及び工学研究科の目的・特徴を勘案の上、総合的に判定した。

### 分析項目Ⅱ 教育成果の状況

〔判定〕 期待される水準にある

〔判断理由〕

観点2-1「学業の成果」について、以下の点から「期待される水準にある」と判断した。

- 第2期中期目標期間（平成22年度から平成27年度）における標準修業年限内の修了率は、博士前期課程では92.6%から94.3%、博士後期課程では33.3%から66.7%の間を推移している。

観点 2-2 「進路・就職の状況」について、以下の点から「期待される水準にある」と判断した。

- 平成 23 年度から平成 26 年度における博士前期課程の就職率は、平成 25 年度の 99.2%を除き各年度とも 100%となっている。
- 平成 24 年度に実施した「三重大学卒業生、修了生、及び事業所への大学教育についてのアンケート調査」（4段階評価）の結果では、事業者からの回答の平均値が「事実や他者に対する誠実さ」及び「基礎学力」は 3.5、「論理や証拠を重視し、それらに基づいて考える力」は 3.2 となっている。

以上の状況等及び工学研究科の目的・特徴を勘案の上、総合的に判定した。

## Ⅱ 質の向上度

### 1. 質の向上度

〔判定〕 改善、向上している

〔判断理由〕

分析項目Ⅰ「教育活動の状況」における、質の向上の状況は以下のとおりである。

- 外国人教員を中心とした少人数実践英語教育、国際会議発表演習をはじめとする国際教育科目群の新設等の取組により、学生の英語力、教育課程の国際通用性の向上に取り組んでおり、英語授業科目の履修者数は平成 21 年度の 120 名程度から、国際教育科目を新設した平成 24 年度の 370 名に増加している。また、博士前期課程学生の英語による発表件数は、平成 21 年度の 88 件から平成 27 年度の 570 件へ増加している。

分析項目Ⅱ「教育成果の状況」における、質の向上の状況は以下のとおりである。

- 第 2 期中期目標期間における標準修業年限内の修了率は、博士前期課程では 92.6%から 94.3%、博士後期課程では 33.3%から 66.7%の間を推移している。

これらに加え、第 1 期中期目標期間の現況分析における教育水準の結果も勘案し、総合的に判定した。

### 2. 注目すべき質の向上

- 外国人教員を中心とした少人数実践英語教育、国際会議発表演習をはじめとする国際教育科目群の新設等の取組により、学生の英語力、教育課程の国際通用性の向上に取り組んでおり、英語授業科目の履修者数は平成 21 年度の 120 名程度から、国際教育科目を新設した平成 24 年度の 370 名に増加している。また、博士前期課程学生の英語による発表件数は、平成 21 年度の 88 件から平成 27 年度の 570 件へ増加している。

## 生物資源学部

I	教育の水準	.....	教育 9-2
II	質の向上度	.....	教育 9-4

## I 教育の水準（分析項目ごとの水準及び判断理由）

### 分析項目Ⅰ 教育活動の状況

〔判定〕 期待される水準にある

〔判断理由〕

観点1-1「教育実施体制」について、以下の点から「期待される水準にある」と判断した。

- 平成27年度に学生定員の変更とそれに伴う教員組織の見直しを行い、3学科9大講座67分野へ変更しているほか、学生が専門性の高い科目群をプログラムとして学ぶため、大学院まで一貫性を有する6教育コースを設置している。
- 総合的なフィールド科学の教育・研究を重視して附属農場、附属演習林、附属水産実験所を統合した附属紀伊・黒潮生命地域フィールドサイエンスセンターは、練習船「勢水丸」を付設しており、勢水丸を含めたセンター教員数は、教授2名、准教授3名、助教2名となっている。

観点1-2「教育内容・方法」について、以下の点から「期待される水準にある」と判断した。

- 学生の主体的な学習を促すための取組として、e-learningの学習支援ソフトであるMoodleを導入しており、60%の教員が授業外学習に活用している。
- 学部の目的である地域に根ざしたグローバルな視点から学ぶための体制を整備するため、平成27年度から、英語の授業を導入し世界の生物資源利用について学ぶ、国際開発資源学教育コースを設置している。

以上の状況等及び生物資源学部の目的・特徴を勘案の上、総合的に判定した。

### 分析項目Ⅱ 教育成果の状況

〔判定〕 期待される水準にある

〔判断理由〕

観点2-1「学業の成果」について、以下の点から「期待される水準にある」と判断した。

- 第2期中期目標期間（平成22年度から平成27年度）の標準修業年限内の卒業率は、86.4%から92.7%の間を推移している。
- 第2期中期目標期間における教員免許取得者は、合計134名となっている。
- 平成22年度から平成26年度における卒業時満足度調査では、4点満点で、学科に対する満足度は平均3.3、講座・研究室に対する満足度は平均3.4となっている。

観点 2-2 「進路・就職の状況」について、以下の点から「期待される水準にある」と判断した。

- 平成 22 年度から平成 26 年度における就職率は平均 94.2%となっており、主な就職先は公務員、食品産業を含む製造業、卸売・小売業となっている。また、就職者のうち三重県・愛知県・岐阜県・静岡県に就職した者の合計は、平均 69.3%となっている。
- 平成 23 年度の卒業生の就職先に対するアンケートでは、4 段階評価で、「事実や他者に対する誠実さ」は平均 3.5、「自然科学に関する基礎知識」は平均 3.3、「基礎学力」は平均 3.4 となっている。

以上の状況等及び生物資源学部の目的・特徴を勘案の上、総合的に判定した。

## Ⅱ 質の向上度

### 1. 質の向上度

〔判定〕 質を維持している

〔判断理由〕

分析項目Ⅰ「教育活動の状況」における、質の向上の状況は以下のとおりである。

- 平成 27 年度に学生定員の変更とそれに伴う教員組織の見直しを行い、3 学科 9 大講座 67 分野へ変更しているほか、学生が専門性の高い科目群をプログラムとして学ぶため、大学院まで一貫性を有する 6 教育コースを設置している。

分析項目Ⅱ「教育成果の状況」における、質の向上の状況は以下のとおりである。

- 平成 22 年度から平成 26 年度における就職率は平均 94.2%となっており、主な就職先は公務員、食品産業を含む製造業、卸売・小売業となっている。また、就職者のうち三重県・愛知県・岐阜県・静岡県に就職した者の合計は、平均 69.3%となっている。

これらに加え、第 1 期中期目標期間の現況分析における教育水準の結果も勘案し、総合的に判定した。



## 生物資源学研究科

I	教育の水準	.....	教育 10-2
II	質の向上度	.....	教育 10-4

## I 教育の水準（分析項目ごとの水準及び判断理由）

### 分析項目Ⅰ 教育活動の状況

〔判定〕 期待される水準にある

〔判断理由〕

観点1-1「教育実施体制」について、以下の点から「期待される水準にある」と判断した。

- 野菜茶業研究所と増養殖研究所の協力の下で設置した連携大学院について、平成23年度に森林総合研究所関西支所を加えた3機関との連携大学院としている。
- 協定大学であるスリウィジャヤ大学（インドネシア）、パジャジャラン大学（インドネシア）との間でダブル・ディグリー制度を実施しており、スリウィジャヤ大学からは第2期中期目標期間（平成22年度から平成27年度）において合計8名、パジャジャラン大学からは平成25年度から平成27年度において合計11名の留学生を受け入れている。

観点1-2「教育内容・方法」について、以下の点から「期待される水準にある」と判断した。

- 学生の豊かな学識と幅広い視野の涵養のため、国際、長期国内、国内の3科目のインターンシップを実施しているほか、連携大学院科目を実施している。
- フィールドサイエンスセンターの3附帯施設（農場、演習林、水産実験所）及び附属練習船を利用してフィールド・学際領域の調査研究を行う「特別調査研究」を必修科目として開設している。

以上の状況等及び生物資源学研究科の目的・特徴を勘案の上、総合的に判定した。

### 分析項目Ⅱ 教育成果の状況

〔判定〕 期待される水準にある

〔判断理由〕

観点2-1「学業の成果」について、以下の点から「期待される水準にある」と判断した。

- 第2期中期目標期間における標準修業年限内の修了率は、博士前期課程は85.9%から92.8%、博士後期課程は21.1%から50.0%の間を推移している。
- 第2期中期目標期間における教員免許取得者は、合計10名となっている。
- 平成22年度から平成26年度における修了時の満足度調査では、身に付いた能力として「専門知識」、「実験や調査を行う力」、「プレゼン力」、「コミュ

ニケーション力」、「問題解決能力」については、4点満点で平均 3.0 以上となっている。

観点 2-2 「進路・就職の状況」について、以下の点から「期待される水準にある」と判断した。

- 平成 22 年度から平成 26 年度における就職率は、博士前期課程は平均 94%、博士後期課程は平均 93.8%となっており、主な就職先は、研究者、農林水産技術者、製造技術者、建築・土木・測量技術者、情報処理・通信技術者、教員等となっている。
- 平成 23 年度の修了生の就職先に対するアンケートでは、「感じる力」、「考える力」、「コミュニケーション力」、それらを総合した「生きる力」という三重大学の「4つの力」に基づいた 28 項目について修了生に身に付いているかという設問に対し、平均 75.9%が肯定的な回答となっている。

以上の状況等及び生物資源学研究科の目的・特徴を勘案の上、総合的に判定した。

## Ⅱ 質の向上度

### 1. 質の向上度

〔判定〕 質を維持している

〔判断理由〕

分析項目Ⅰ「教育活動の状況」における、質の向上の状況は以下のとおりである。

- 野菜茶業研究所と増養殖研究所の協力の下で設置した連携大学院について、平成 23 年度に森林総合研究所関西支所を加えた 3 機関との連携大学院としている。

分析項目Ⅱ「教育成果の状況」における、質の向上の状況は以下のとおりである。

- 平成 22 年度から平成 26 年度における就職率は、博士前期課程は平均 94%、博士後期課程は平均 93.8%となっており、主な就職先は、研究者、農林水産技術者、製造技術者、建築・土木・測量技術者、情報処理・通信技術者、教員等となっている。

これらに加え、第 1 期中期目標期間の現況分析における教育水準の結果も勘案し、総合的に判定した。

**地域イノベーション学研究科**

I	教育の水準	.....	教育 11-2
II	質の向上度	.....	教育 11-4

## I 教育の水準（分析項目ごとの水準及び判断理由）

### 分析項目 I 教育活動の状況

#### 〔判定〕 期待される水準を上回る

#### 〔判断理由〕

観点1-1「教育実施体制」について、以下の点から「期待される水準を上回る」と判断した。

- 研究開発能力やプロジェクト・マネジメント能力並びに国際感覚を有する即戦力型人材養成のため、専門的な研究開発を担当する教員（R&D 教員）と、研究プロジェクト・マネジメントを担当する教員（PM 教員）が、1名の学生に対して双方から指導を行い、両方の能力をバランス良く育成する「サンドイッチ方式教育」を実施している。
- 学際的な教育研究を実施するため、R&D 教員は5学部・1センターを兼務し、同時に他の学部や研究科等と連携している。また、PM 教員は企業出身者であり、工学、食品系企業の経験を活かした教育に取り組んでいる。
- 平成21年度以降、全教員と博士後期課程の2年次生に対して、異分野の教員への研究についての説明や、異なる視点からの意見交換等を行うことで、参加者全員が異分野の考え方や問題点を理解し、新しいイノベーションのきっかけを発見する研究内容講演会を継続的に開催している。

観点1-2「教育内容・方法」について、以下の点から「期待される水準にある」と判断した。

- 教育目的に即した人材の養成のため、在学中に課題を解決する試みを実施しながら教育する方法（OPT 教育）やインターンシップ等を実施している。特に OPT 教育では、協力企業とともに「地域イノベーションの数理モデルの構築と評価方法」等、複数の文理融合型の共同研究教育を実施している。
- 毎年度実施している修了時のアンケート調査では、教育方法で「有効であった」との回答が多かった項目は、インターンシップ研修、OPT 教育、サンドイッチ方式教育となっており、第2期中期目標期間（平成22年度から平成27年度）の平均は、それぞれ93%、84%、81%となっている。
- 学生の国際感覚を向上させるため、国際会議での発表の推奨、地域イノベーション学に関する国際ワークショップ等での英語による発表や、英語論文作成の推進等を実施することにより、博士前期課程・博士後期課程ともに、在学中に英語で研究成果を発表する機会を設けている。

以上の状況等及び地域イノベーション学研究所の目的・特徴を勘案の上、総合的に判定した。

## 分析項目Ⅱ 教育成果の状況

### 〔判定〕 期待される水準にある

#### 〔判断理由〕

観点2-1「学業の成果」について、以下の点から「期待される水準にある」と判断した。

- 第2期中期目標期間の博士前期課程の標準年限内の修了率は、平均 91.2%となっている。
- 論文作成については、指導教員を除いた調査委員会による論文審査や発表会形式による口頭試問の実施、他の研究科の教員や企業経営者が参加する公開討論会の開催のほか、外部評価を行った上で、最終評価を研究科教授会で審議し決定している。これにより、学生は他の研究分野の考え方やプロジェクト・マネジメントの考え方等の視点から研究を実施するようになり、それぞれの価値観を理解した実践的な研究論文が多くなっている。
- 第2期中期目標期間の学生による研究発表件数の年度平均は、国内学会は 15.7 件、国際学会は 12.6 件、国際学会論文集（英語）は 9.3 件、日本語学術雑誌論文は 1.8 件、英語学術雑誌論文は 3.0 件となっている。

観点2-2「進路・就職の状況」について、以下の点から「期待される水準にある」と判断した。

- 第2期中期目標期間の博士前期課程の修了生 63 名中、58 名（92.1%）が就職している。そのうち 43 名（修了生の 68.3%）は三重県、愛知県や隣接県に本社・事業所がある企業、地方自治体、教育機関に就職している。また、食料品・化学・医薬品・金属製品・機械機器メーカー、情報通信、公務員を合わせると、修了生の 82.5%は大学院での教育内容に関連した分野に就職している。

以上の状況等及び地域イノベーション学研究所の目的・特徴を勘案の上、総合的に判定した。

## II 質の向上度

### 1. 質の向上度

〔判定〕 改善、向上している

〔判断理由〕

分析項目 I 「教育活動の状況」における、質の向上の状況は以下のとおりである。

- 研究開発能力やプロジェクト・マネジメント能力並びに国際感覚を有する即戦力型人材養成のため、専門的な研究開発を担当する教員（R&D 教員）と、研究プロジェクト・マネジメントを担当する教員（PM 教員）が、1名の学生に対して双方から指導を行い、両方の能力をバランス良く育成する「サンドイッチ方式教育」を実施している。
- 養成しようとする人材像に応じた教育のため、在学中に課題の解決方法を実施しながら教育する方法（OPT 教育）やインターンシップ等を実施している。特に OPT 教育では、複数の文理融合型の共同研究教育を実施している。
- 学生の国際感覚を向上させるため、国際会議での発表の推奨、地域イノベーション学に関する国際ワークショップ等での英語による発表や、英語論文作成の推進等を実施することにより、博士前期課程・博士後期課程ともに、在学中に英語で研究成果を発表する機会を設けている。

分析項目 II 「教育成果の状況」における、質の向上の状況は以下のとおりである。

- 博士前期課程では、第 2 期中期目標期間の標準修了年限内の修了率は 75% から 100%の間を推移しており、修了者の 7 割近くが地域の企業・自治体等に就職している。

これらに加え、第 1 期中期目標期間の現況分析における教育水準の結果も勘案し、総合的に判定した。

### 2. 注目すべき質の向上

- 研究開発能力やプロジェクト・マネジメント能力並びに国際感覚を有する即戦力型人材養成のため、専門的な研究開発を担当する教員（R&D 教員）と、研究プロジェクト・マネジメントを担当する教員（PM 教員）が、1名の学生に対して双方から指導を行い、両方の能力をバランス良く身につける「サンドイッチ方式教育」を実施している。
- 養成しようとする人材像に応じた教育のため、在学中に課題の解決方法を実施しながら教育する方法（OPT 教育）やインターンシップ等を実施している。特に OPT 教育では、複数の文理融合型の共同研究教育を実施している。



- 学生の国際感覚を向上させるため、国際会議での発表の推奨、地域イノベーション学に関する国際ワークショップ等での英語による発表や、英語論文作成の推進等を実施することにより、博士前期課程・博士後期課程ともに、在学中に英語で研究成果を発表する機会を設けている。

